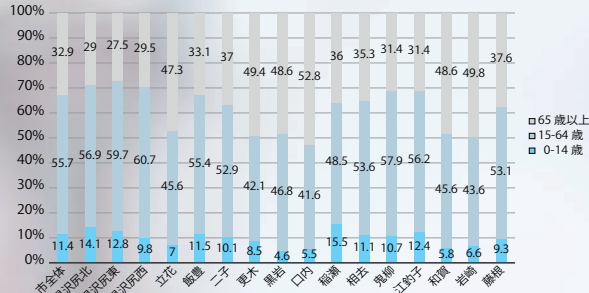


現状

増えていくもの、減っていくもの
増えていくもの、減っていくもの

■年齢3区分別人口の割合(2040年予測)



出典：北上市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年改訂版)
※歳数調整の関係で合計が100%にならない場合があります。

高齢化の進行

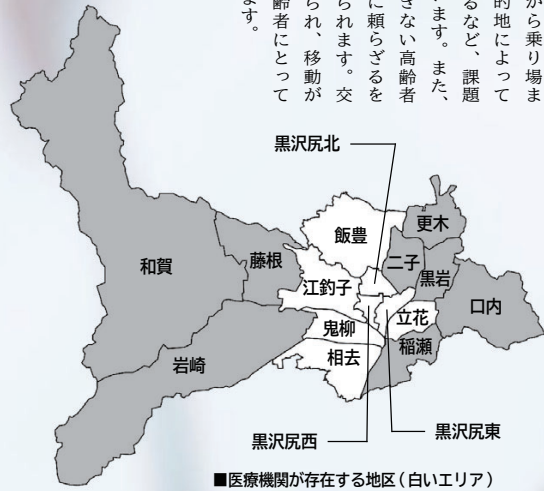
年々、高齢化率が上昇しており、2030年には市の人口の約30%が高齢者(65歳以上)に、2040年には、立花、二子、更木、黒岩、口内、稲瀬、相去、和賀、岩崎、藤根地区で、35%以上が高齢者になると予測されています。

移動手段の制約

市内の移動手段は自家用車に加え、JR線や岩手県交通バス、コミュニティバス、タクシーなどの公共交通機関も運行されています。市では、住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、公共交通ネットワークの維持や利用促進を図るとともに、高齢者や障がい者の外出支援などにも取り組んでいます。また、自家用車の運転ができない高齢者などは、家族の送迎に頼らざるを得ない場面も見受けられます。交通手段の選択肢が限られ、移動が制限されることが高齢者にとって特に問題となっています。

医療機関の偏在

市内には50以上の医療機関が存在し、100病床を超える病院が3院あります。しかし、その多くは市の中央部に集中しており、市の人口の約2割が暮らす8地区(二子・更木・黒岩・口内・稲瀬・和賀・岩崎・藤根地区)には、病院・診療所がありません。



いつもの場所で
いつも元気に。

私たちが安心して生活できるのは「健康」があつてこそ。そして、その健康を支えているのが「医療」です。なくてはならない医療が、高齢化や公共交通の減少、地方での医師不足など、全国的に大きな問題に直面しています。

当市も例外ではなく、市の中央部に集中する医療機関が皆さんの健康を支えています。こうした状況の中、市民が住み慣れた場所で安心して医療を受けられるよう、市では専用車両が自宅を訪問し、オンライン診療をする「モバイルクリニック」を検討してきました。今回は、その取り組みをご紹介します。



特集 モバイルクリニック
患者と医師をつなぐ

問い合わせ…健康づくり課 ☎0197-72-8315

実感

医師と患者の声 ~実証実験を経て~
医師と患者の声 ~実証実験を経て~

Interview



北上済生会病院 柴内 一夫 副院長

全国的な医師不足のほか、岩手県は土地が広く移動距離が長いことや病院が市街地に集中しているため、遠方から通院する患者さんの負担が大きいのが現状です。高齢化の進展に伴う交通弱者の増加などに対する問題もあります。そして、今後高齢化が進んで、対応できる訪問診療の手が回らなくなっていくのではないかと気がかりです。また、障がいなどで医療依存度が高い人が救急搬送されても、病院の診療が終了した後に引き受けてくれる施設が少ないと感じています。限られた医療資源の中で、患者さんに寄り添い、地域で支えていくアック

ションが必要で、「モバイルクリニック」がきっかけになるのではないかと思いました。
モバイルクリニックは自宅まで専用車両が行くことで医療にアクセスしやすくなり、患者さんやその家族にとっても、私たち医師にとってもさまざまな恩恵があると思っています。例えば、通常診療のほかに、1人で通院が困難な患者さんを対象に行う訪問診療や往診がありますが、モバイルクリニックは従来の診療と組み合わせることで、医師は緊急性の高い患者さんの診療に時間を充てることができます。また、患者さんは対面に近い診療ができ、在宅医療の選択肢の幅が広がります。
このように、モバイルクリニックは安心の在宅環境と切れ目のない医療提供体制を実現し、医師不足地域の課題解決につながると思っています。
オンラインという不安に思っかもしれませんが、車には看護師さんが乗っていますので、機器の操作は必要ありませんし、聞きづらいことがあってもサポートしてくれます。安心して気兼ねなく受診することができるのでぜひ活用いただきたいですね。

Interview



及川 二代三さん(80歳)、聖子さん(76歳・二子町)

診療車が自宅まで来てくれると本当に楽で、助かるなど思いました。
私たちは2人暮らしで、私が3年前から中部病院に、夫が20年近く済生会病院にそれぞれ約3カ月に1回の頻度で通院しています。私は運転免許がありませんので、いつも夫の運転で移動しています。また、夫が病院に行く際は、言葉が詰まったり、発音が不明瞭だったりするので毎回付き添いをしていきます。そのため、それぞれの通院の日程が重ならないように考えなければいけないのが大変です。



実証実験時に専用車両でオンライン診療を受ける患者

革新

モバイルクリニックが支えるこれからの医療
モバイルクリニックが支えるこれからの医療

鍵を握る「オンライン診療」
近年、高齢者の増加に伴い、訪問診療の必要なケースが増える中、新型コロナウイルス感染症の拡大でニーズが高まったのが、オンライン診療。元々は離島に住む医療を受けることが困難な患者向けだったものが、自宅にいながらビデオ通話機能などを使って画面越しに診察できる利便性の高さも相まって普及が進みました。現在、県内でもスマートフォンやタブレット端末などを活用した診察が広がってきています。

先進事例の「モバイルクリニック」に着目

このオンライン化と移動問題を結びつけ検討する中で、当市では、長野県伊那市が全国で先駆けて導入した「モバイルクリニック」に着目。これは、専用車両が自宅を訪問し、同乗した看護師のサポートで医師によるオンライン診療を受けられるもので、今注目を浴びている診療手法です。患者も医師も移動することなく診察できるため、双方の移動負担の軽減につながり、ま

た、患者は自宅という安心できる場所で機械を操作することなく診療を受けることができます。

いつもの場所ですいつも元気に

市では、令和4年11月から約3カ月間、伊那市の事例を参考にモバイルクリニックの実証実験を行いました。利用者からは、「通常の診療と変わらない」「今後も継続してほしい」との声をいただいたなどおむね好評で、現在、市内の医療関係者と協力して来年1月からの本格運用を目標としています。(東北初の試みで、全国5例目)
住み慣れた場所で元気に暮らし続ける。北上市は、新たな仕組みとおして、健康と安心の地域づくりを目指します。

利用するためには次の①~③の条件を満たし、オンライン診療の実施に同意いただく必要があります。

- ①モバイルクリニック協力医療機関へ通院中(在宅医療患者を除く)
- ②生活習慣病などの慢性疾患で定期的に受診しており、病状が落ち着いている
- ③胃管交換、ブロック注射などの医師による処置が不要

※3回に1回は対面診療を行うなど、オンラインと対面を組み合わせることを想定しています。